

特別活動報告

四技能の運用能力向上を目指す文化プロジェクトの試み

－夏期日本語教育初級後半クラスにおける実践例－

小松 満帆

1. はじめに

言語学習において4技能の調和のとれた活動を実施することが望ましいことは言うまでも無い。さらにそこに日本文化への触発という要素を加えることができれば、学習者にとって有意義な学びとなることは疑いようがない。この考えに基づき、2006年度夏期日本語教育C3では、プロジェクト「日本の建物」と銘打ち、4技能を活用する課題を与え、学習者の能力向上を図った。

今回のプロジェクトでは、日本の伝統的な建物に触れる、そこから情報を取る、その情報を自らの言語能力を駆使してクラスに報告する、という3つの段階を踏んだ。東京都小金井市にある江戸東京たてもの園への校外学習を大きな軸とし、具体的には

1. 日本の歴史についての学習
2. インターネットを利用した情報収集
3. 日本語母語話者との交流により、入手した情報を膨らませる
4. 江戸東京たてもの園への課外活動
5. 課外活動で得た情報を口頭発表する
6. 口頭発表の内容をポスターにまとめる

という内容で行った。これらの活動には、情報収集のために読む、日本語母語話者と話す、まとめた文章を口頭で発表する、ポスター作成のために書く、といった4技能のほか、日本の歴史について学習し、日本の伝統的な建造物に触れることで日本文化での学びも含まれている。

本稿では、プロジェクトの流れと、そこから得られた学習効果、また今後の課題などを報告する。

2. 活動の概要

2-1. 学習者

C3は当初22名のコースであったが、その内1名が私的な事情によりコースを辞退したため、最終的には21名によりプロジェクトを遂行することとなった。

本プロジェクトでは、22名の学習者を7つのグループに分け（3名×6グループ、4名×1グループ）、それぞれのグループでテーマを決め、最終発表を行った。しかし、前述したように1名がコースを辞退したため、2名のグループが一つできてしまった。学習者数が減った時期が早期であればグループを組みなおすことも考えられたが、すでにそれぞれのグループが活動を始めたあとだったため、人数の減ったグループの学生とも話した上、そのままのグループ形態での続

行を決めた。そのため、2名になってしまったグループが不利にならぬよう配慮が必要であった。

2-2. 活動の目標

本プロジェクトには3つの大きな目標があった。それは、1. 日本の歴史的背景を知る、2. 情報を読み取る、3. 読み取った情報をまとめて発表する、というものである。情報を読み取り、それをわかりやすくまとめて伝えるという作業に加え、テーマを日本の建物としたことで文化的な側面を持たせた。したがって、学習者は日本語力を伸ばし、それを試す場を得ただけではなく、日本文化に触れる機会も得たのである。その具体的な手順は、日本の歴史に関する講義を受け、実際に日本の古い建物に触れることで日本の歴史的な背景を知り、インターネットサイトや江戸東京たてもの園の説明パネルを読んだり、江戸東京たてもの園の解説員の話の聞いたりすることで情報を収集し、口頭発表とポスター発表において、自分の得た情報を伝える、というものである。伝えるという作業では口頭発表とポスター発表という多角的な方法をとったため、口頭による説明だけではなく、書くことによっても日本語の能力が試された。

2-3. 評価

コース全体の評価のうち、プロジェクトの評価が占める割合は10%であったが、その内訳は、以下のとおりである。

- ・準備……15%
- ・協力……15%
- ・口頭発表……40%
- ・ポスター発表……30%

2-4. スケジュール

プロジェクトは、夏期日本語教育全7週間のうち、第2週から第6週目までの5週間、毎週金曜日の2コマ(70分×2コマ)、計10コマを利用して行った。具体的な活動内容は以下のとおりである。

第2週	1. 日本の歴史に関する講義（主に江戸、明治、大正、昭和期について） 2. 江戸東京たてもの園のホームページから情報を読み取る
第3週	江戸東京たてもの園のホームページから得た内容、日本の歴史、日本の伝統的な建造物、自国の建造物について日本語母語話者と話す（ビジターセッション、準備時間を含む）
第4週	課外活動 江戸東京たてもの園（東京都小金井市）
第5週	口頭発表
第6週	ポスター作成、掲示

学習者には第2週の時点でプロジェクト全体のスケジュールを説明し、最終的には口頭発表、ポスター発表をするということを意識させてから活動を開始した。そうすることで、各自がテーマを早期から絞りやすいと考えられたためである。

2-5. 授業内容

2-5-1. 第2週

学習者の中には日本の歴史についてあまり知識のない者が多かった。そのため日本の伝統的な建造物に触れる前に日本の歴史の大きな流れを導入する必要があると考え、写真を使用した基礎的な知識に関する講義を行った。その際、こちらからの一方的な導入を行うのではなく、学生からできるだけ知っている情報を引き出すよう努めた。具体的には、インターネットで集めた各時代を象徴するような写真をプロジェクターで投影し、それに関する説明や時代背景の説明を行い、学生から積極的に意見や知っている事柄を自由に発言させるという方法で行った。今回のプロジェクトで訪れた江戸東京たてもの園は、江戸、明治、大正、昭和初期の建造物を展示している博物館であるため、主にその時代に絞っての講義を行ったが、江戸以前の歴史の大まかな流れについても触れた。

続いて、学習者を3～4名のグループにわけ、それぞれのグループに、江戸東京たてもの園のホームページから必要な情報を採取するという課題を与えた。具体的には、江戸東京たてもの園そのものに関する情報（開園時間や料金など）を調べたのち、園内の地図を見て自分たちが実際に見学したい建造物を5つ選ぶ、という課題であった。5つという数の理由は、できるだけ多くの、そして多様な時代の建物に触れることで、歴史の変遷や動きを知ることには意義があると考えたためである。ホームページ上にはC3レベルの学習者にとっては難解と思われる語彙も多く含まれていたため、ふりがなソフトの使用を指導し、さらに補助が必要な場合には教師が適宜行った。この際、各グループには園の情報や見学計画を書き込むタスクシートを与え、必要事項を記入させた（資料1参照）。その後タスクシートを回収し、学生の理解度や見学計画について確認し、指導が必要な場合には適宜行った。

2-5-2. 第3週

続いて、第2週に江戸東京たてもの園のホームページから得た情報を軸とし、日本語母語話者とのビジターセッションを行った。その日の1コマ目は、ビジターセッションの準備として、第2週に記入したタスクシートの内容のまとめ、またそれに付随して、講義で聞いた日本の歴史に関する質問、日本の建造物、家屋についての質問を準備させた。さらに、自国の伝統的な建造物についても説明する準備をさせた。ここでは、グループワークではなく、できるだけ一人一人が多く発言するように、1対1の会話を設定していたため、個人作業とした。続く2コマ目には、日本語母語話者と1対1のビジターセッションを行い、前のコマに準備したことについて話し合いの時間を持った。この際、学生から日本語母語話者に対して出た主な質問は、畳、障子、風呂など、日本家屋の様式に関するものが多かった。

2-5-3. 第4週

第4週目には、課外活動として東京都小金井市にある江戸東京たてもの園を訪れた。江戸東京たてもの園は、都内の両国にある江戸東京博物館の分館として開かれたもので、園内は緑の多い公園のような造りで、江戸、明治、大正、昭和初期の建造物がそのまま移築され、点在して展示されている。見学者は実際にそれらの建造物の中に入ることが可能である。

現地では、各グループに分かれ、第2週に選んだ5つの建造物を中心に見学し、その詳しい情報を得るという課題を課した。そして時間に余裕のある場合には、そのほかの建造物を見学するというようにした。しかし、やはりホームページで見るのと実際の建造物を見るのとでは大きく差があり、現地で目標の建造物を変更するグループも多く、また最終発表に向けて具体的なテーマを絞りつつ見学するグループもあり、グループによって見学風景に差が見られた。

江戸東京たてもの園内には、英語の説明パネルも設置されており、また英語のパンフレットも配布されたが、それでも説明不足の箇所もあったため、各グループに日本語母語話者（教師を含む）を配し、補助の役目を担わせた。

また、見学に際しては各自1枚のワークシートを与え（資料2参照）、得た情報を記入するよう指示した。記入には母語の使用も認めたが、日本語、母語、イラストなどを駆使し、情報をできるだけ多く書きとめようとする様子が伺われた。また当日はいくつかの建造物に園のボランティアの方が常駐しており、その方たちの話を熱心に聞き、書きとめる学習者の姿も見られた。

2-5-4. 第5週

第5週に行った口頭発表では、前週の江戸東京たてもの園見学で得られた情報をグループごとにまとめ、5～10分のプレゼンテーションを課題とした。視覚資料の使用については自由とした。視覚資料の使用に関しては特別な指導はしなかったが、8グループ中7グループがパワーポイントを使用した。難しい語彙のリストについては事前に指導していたため、すべてのグループが準備していた。また、発表のテーマも各グループの自由とした。発表のテーマは以下の通りである。

- ・「八王子同心組頭の家」について（園内の建物について）
- ・「高橋是清邸」について（園内の建物について）
- ・「村上精華堂」と「花市生花店」（園内の建物について）
- ・家紋と装飾

（園内の建物から家紋や珍しい装飾を探し、その種類や用途などについてまとめた。）

- ・日本の伝統的な屋根

（日本の伝統的な屋根の形状について調べ、園内の実際の建物と照らし合わせた。）

- ・日本の建物の歴史と実際の建物

（江戸東京たてもの園内にあった建物の当時の位置を調べ、実際にその場所へ行って写真を撮り、現在の様子を報告した。）

- ・日本のトイレ

（江戸東京たてもの園内の建物でトイレが残っているものを探し、係員に許可を得た上で時代

による違いを調べた。)

多くのグループはパワーポイントにより視覚的な効果を狙っていたが、中には、寸劇を盛り込むようなグループも見られた。また、江戸東京たてもの園で学んだことを発表するという課されたテーマだけでなく、インターネットや資料を駆使し、さらにテーマを広げたグループも見られた。

発表では、クラスメイトだけではなく、多くの日本人にも聞いてもらいたいという学生の要望から、新たな日本人ビジターにも若干名来てもらい、発表を聞いてもらった。全グループの発表後、ビジターに各グループ入ってもらい、改めてグループの報告をし、質疑応答を行った。ビジターからは、質問及び多くのコメントをもらい、学習者たちは大いに自信をつけたようであった。また自分たちの調べたテーマについて日本人の見解も聞け、満足したという声も聞かれた。

2-5-5. 第6週

最後の週では、2コマを使い、前週に発表した内容について各グループでポスター（模造紙1枚）を製作した。学生は、写真やパンフレットの切り抜きを利用し、色とりどりのポスターを書き上げた。（資料3参照）

3. まとめ—成果と反省

まず反省点としては、夏期日本語教育ということで期間が6週間と短く、かなり駆け足でのプロジェクトとなったことが挙げられる。特に口頭発表では、スクリプトの添削や指導をする時間が十分に取れず、結果的には授業間の短い時間を利用しての個別指導になってしまい、課外活動の次の週にはすぐに発表をしなければならないという状態で、学習者には負担になったかもしれない。口頭発表の前段階として、スクリプトの作成、指導、発表の練習の時間を確保できれば、プロジェクトの完成度はさらに高くなると思われる。

理想的には、準備時間としてより多くのコマを確保することである。しかし、限られた時間内で活動を行う場合には、プロジェクトの内容を工夫する必要がある。その一つとして、テーマを限定するということが考えられる。例えば、今回のように各グループが5つずつ建物を見学するのではなく、1グループ1つとし、調査する内容を狭めるという方法もあるだろう。また、クラス全体で1つの建物を選出し、グループ別にその建物の細かい部分、例えば歴史、装飾、構造などに焦点を絞り、全体で大きな調査を完成させるという方法も考えられる。しかし、建物を一つに限定してしまうと常にその建物だけに集中していることになり、学習者の興味をどれだけ高く保てるかという点が問題になるだろう。さらに、建物が一つに絞られればそれだけ学習者の触れる歴史的側面も狭くなるということになり、幅広く文化を学ぶという目標においてはやや妥協が必要となると考えられる。また、今回のプロジェクトではグループによるポスター発表という方法を選択したが、規模の小さいクラスでは個別作業にし、クラスで小冊子を作成するという手段も考えられる。そうすれば、グループで集まることなく個別に作業ができるので、準備時間もより多く確保できるだろう。しかし、その場合には学習者同士が何かを共に作り上げることによ

て得る一体感は生まれにくいかもしれない。

ところで本プロジェクトのもっとも大きな成果は、学習者たちによる口頭発表とポスター発表のレベルの高さであるといえる。C3レベルは、初級後半のクラスであり、既習事項も語彙も少なく、課題としては若干厳しいかもしれないという不安もあった。しかし学習者たちの意欲、独創性、そして積極的な取り組みにより、期待以上の成果が得られた。特にポスター発表では、難しい語彙や未習の文型も積極的に盛り込み、とても初級レベルとは思えない完成度の高いものができあがった。やはり、日本の建物というテーマを設定しプロジェクトの内容を日本の文化に引き寄せたことが、学習者の興味を駆り立てたと思われる。さらに、作業段階を明確に提示することで、学習者自身がこちらの意図をよく理解し、達成すべき課題や目標をしっかりと設定できたと思われる。

また、数日間ポスターを掲示したが、完成度の高さに対して他レベルの学習者や教師から多くの高い評価を得ることができた。そして、そのことでC3の学習者たちが達成感、充実感を持ったということが、その後のかれらとのやり取りから垣間見られた。学習者にとっては、学習への大きな動機付けとなったようである。また、教師にとっても学習効果が得られたということが明確になり、言語学習におけるプロジェクトの意義を実感することができた。

5 週間のプロジェクトを終え、4 技能を駆使する活動及び日本文化に触れるという本プロジェクトの目標は達成されたと考えている。学習者も身をもって建物に接し、自分の力で情報を得て、そして伝えるという段階を経験したことで大きく飛躍し、自信をつけたと感じられた。日本の歴史に触れ、情報を読み取り、調べ、発表し、わかりやすくまとめる、という段階を経ることにより、学習者にとって大変有意義な学びとなったことを確信している。

資料1-1 ウェブリサーチワークシート

SCJ C3 プロジェクト ウェブリサーチ

1. 下のサイトを見てください。サイトは漢字^{かんじ}で書いてありますので、読み方がわからないときは、ふりがなHPを使ってみましょう。

江戸^{えど}東京たてもの園^{えん}HP <http://www.tatemonoen.jp/index.html>

ふりがなHP <http://sp.cis.iwate-u.ac.jp/sp/lesson/j/doc/furigana.html>

■たてもの園^{えん}について

1. たてもの園はどこにありますか。
2. ICUからたてもの園へ行くとき、どう行きますか。
3. たてもの園はいくらですか。
4. たてもの園はいつ休みですか。
5. たてもの園の電話^{でんわ}番号^{ばんごう}は何番^{なんばん}ですか。
6. たてもの園はいつ作りましたか。

■たてもの園の中にある建物^{たてもの}について

1. たてもの園にはいくつ建物がありますか。
2. たてもの園にはいくつゾーンがありますか。そのゾーンの名前は何ですか。
3. 『千と千尋の神隠し^{ちひろ かみかく}』のモデルになった建物の名前は何ですか。映画^{えいが}を見たことがない人は、グループの人に教えてもらいましょう。
 - ・お風呂^{ふろ}屋^やさん→
 - ・釜^{かま}じいの仕事^{おし}の部屋^{へや}→

資料1-2

■グループワークについて

1. あなたが見たい建物はどれですか。それはどうしてですか。(5つ)
2. どんな順番^{じゅんばん}(order)でたてもの園^{えん}を見ますか。予定^{よてい}(plan)を考えましょう!

■時間があったら見てください。

日本の歴史サイト (English) <http://www.japan-guide.com/e/e641.html>

http://en.wikipedia.org/wiki/History_of_Japan

資料2 課外活動ワークシート

☆江戸東京たてもの園グループワーク☆

■自分の名前：_____

■グループの人の名前：_____

■わかったことをメモしましょう。何がおもしろかったですか。どんなたてものでしたか。

1 たてものの名前_____

●いつたてられましたか (was built)。_____

●それは何時代 (period) ですか。_____

●何ゾーンにありましたか。_____

●どんなたてものでしたか。

<メモ>

2 たてものの名前_____

●いつたてられましたか (was built)。_____

●それは何時代 (period) ですか。_____

●何ゾーンにありましたか。_____

●どんなたてものでしたか。

<メモ>

3 たてものの名前_____

●いつたてられましたか (was built)。_____

●それは何時代 (period) ですか。_____

●何ゾーンにありましたか。_____

●どんなたてものでしたか。

<メモ>

4 たてものの名前_____

●いつたてられましたか (was built)。_____

●それは何時代 (period) ですか。_____

●何ゾーンにありましたか。_____

●どんなたてものでしたか。

<メモ>

5 たてものの名前_____

●いつたてられましたか (was built)。_____

●それは何時代 (period) ですか。_____

●何ゾーンにありましたか。_____

●どんなたてものでしたか。

<メモ>

- ほかに、何を見ましたか。たてもの園はどんな博物館（museum）でしたか。
あなたはどう思いましたか。メモを書きましょう。

資料3 ポスター発表例

